

苫小牧市民自治推進会議（平成27年度第4回）会議録

開催日時 平成28年2月4日（木）午後6時30分～午後8時15分
開催場所 苫小牧市役所9階 第2委員会室
出席委員 谷岡会長、小山田副会長、川島委員、喜多委員、栗山委員、水口委員、
山田委員、山本委員
欠席委員 佐藤委員、志方委員
事務局 市民自治推進課長補佐（中村）、市民自治推進課主査（吉田）
説明員 市民生活課長（石井）、市民生活課主査（猿田）、市民生活課主事（寺口）
報道機関 苫小牧民報社
傍聴者 なし

1 開会

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、苫小牧市民自治推進会議を開催させていただきます。

本日、佐藤委員と志方委員につきましては、欠席ということで御連絡がありましたので、御報告させていただきます。

会議開催の前に、委員の交代がありましたので、お知らせをいたします。苫小牧青年会議所の廣島委員から委員辞職の申出がありましたことから、昨日付けで委員の職を解きまして、本日付けで苫小牧青年会議所から推薦のありました山本康二さんを委員として委嘱することとなりました。山本委員への委嘱状を交付させていただきますので、御起立をお願いいたします。

【山本委員に委嘱状が交付された。】

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） それではですね、山本委員から自己紹介を含めまして、一言お願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

●山本委員 はい、今回からお世話になります苫小牧青年会議所の副理事長を務めております山本です。会（青年会議所）の方ではですね、事業室というところの担当でして、内部的な新年交流会ですとか、卒業式であったり、後は対外的でいうとお祭り委員会として今も設営をやらせていただいているスケート祭りですとか、港祭り。今回、樽前山フェスティバルの方にも深く関わっていきたいというふうに思っておりますので、何かと皆様にはお世話になるかと思っておりますので、是非、よろしくをお願いいたします。

○事務局（加賀谷市民自治推進課長） 山本委員、ありがとうございました。

それでは、谷岡会長、進行の方をよろしく申し上げます。

●谷岡会長 本日は、お疲れのところ各委員の皆様にお集まりをいただきましてありがとうございます。また、山本委員に置かれましては、今後ともよろしくお願いをいたします。

3月にもう一度、市民自治推進会議が開かれますけれども、今日も各委員の皆様のお忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。簡単ですが、挨拶に代えたいと思っております。あ

りがとうございます。では、後は座って議事を進行させていただきます。

それでは、会議次第により、(1) 市民政策提案制度による政策提案の報告について、事務局から説明をお願いいたします。

2 会議

(1) 市民政策提案制度による政策提案の報告について

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい。それでは、市民政策提案制度による政策提案の報告について、私の方から説明させていただきます。

初めに、市民政策提案制度がどういった制度かということの説明させていただきます。この制度は、市政全般にわたって寄せられる通常の提案や苦情などとは異なり、具体的な政策を提案していただくものとして、苫小牧市市民参加条例第17条に規定された市民参加の一つの手法として設けられた制度になります。

提案については、個人的なものではなく、一定程度の人の集まりの中で組織的に検討・吟味されたものを想定しています。そのため、具体的に政策の内容をまとめ、18歳以上の市民10人以上の署名とともに、市に対して提出することとしています。年齢要件については、市民参加の対象と考えられる社会人としての年齢を考慮し、18歳としています。政策の提案があったときは、当該提案のあった日から3か月以内に検討結果及びその理由を当該市民に通知するとともに、その概要を公表するものとしています。

市民政策提案制度の運用に関する実施要綱の中で、市民政策提案制度により提案があった場合につきましては、市民自治推進会議へ報告しなければならないと規定されていますので、今回、報告させていただくということでございます。

会議次第の次の資料になるんですけれども、クリップで留められている1枚目の資料になりますが、こちら、市民政策提案制度による政策提案の報告について①、裏面が②となっておりますけれども、まず、初めに①の方を御覧ください。平成27年8月24日に笹森さんという方が提案代表者として、①から⑥について、提案書の提出がありました。

平成27年8月24日の政策提案の提出後、担当課における庁内検討が開始され、部長会議の中で提案内容の報告、提案内容に対する回答（案）についての確認を経て、11月24日に提案者へ回答を行っております。

提案内容ですが、①、②については、非核平和都市条例の周知に関する提案。③については、戦争体験を風化させないための取組についての提案。④については、放射能汚染の被害を受けている福島の子どもの移住についての提案。⑤については、外国軍艦船入港時の「非核証明書」の提出についての提案。⑥については、脱原発に関する提案となっております。

提案理由、内容、回答の詳細につきましては、配布資料の別紙1から別紙6を後ほど御確認いただきたいと思います。

続きまして、先ほどの資料の裏面の②番ということになりますけれども「市民政策提案制度による政策提案の報告について②」の方を御覧いただきたいと思います。平成27年10月30日に苫小牧青年会議所の理事長を提案代表者として、市民協働型お祭りに関する提言書として、政策提案の提出がありました。

平成27年10月30日の政策提案の提出後、担当課における庁内検討が開始され、部長会議の中で提案内容の報告、提案内容に対する回答（案）についての確認を経て、平成28年1月29日に提案者へ回答を行っております。

提案内容ですが、お祭りの運営組織に関する提言と、市民がお祭りに参加するための提

言となっています。

提案理由、内容、回答の詳細につきましては、同じく配布資料の別紙7で後ほど御確認いただければと思います。他にも、関係資料として市民協働型お祭りに関する提言書も配布させていただいておりますので、併せて、後ほど御確認いただければと思います。市民政策提案制度による政策提案の報告についての説明は以上となります。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。ただ今の説明に関して、何か御質問はありますか。

●川島委員 ちょっと、一つだけ確認です。あの、これは、提言できるっていうのは、これ、さっき市民10人以上のグループという形。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） 10人以上の署名がですね、必要となっております。

●川島委員 署名ですか、はい、すいません。

●谷岡会長 あとは、ないでしょうか。なければ、次に進んでよろしいでしょうか。

はい、では次に進みます。あの、本題になりますけれども、(2)市と町内会との協働についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、(2)市と町内会との協働について、説明させていただきます。

前回の推進会議の中で少しお話させていただきましたが、小山田副会長に講師をお願いしまして、協働に関するテーマで職員研修会と市民向けセミナーを今年の11月に開催しております。開催結果について報告させていただきたいと思います。

資料の「職員研修会「市民との協働のまちづくり」開催結果」と書かれた資料の説明になりますが、こちらの資料を御覧いただきたいと思います。こちらは、市職員を対象とした研修会で、今年の11月16日に開催し、53人の出席がありました。

1 ページ目には、講演・講義の要旨が書かれておりますけれども、2 ページ目の方を御覧いただきたいと思います。

2 ページ目には、「市民との協働の問題点と解決策について」をテーマとしたグループ討議が行われ、その概要ということになりますけれども、概要について簡単に御説明申し上げます。情報共有、人材不足、協働を推進する体制の整備について、グループ討議の中で問題点として挙げられておりました。解決策として、情報共有では既存の情報発信の強化や見直しにより、効果的な広報を行うことや人事交流により情報共有を図る。また、意見交換会の場を設置し、参加した市民自身からの口コミによる情報発信が挙げられておりました。人材不足では、企業などの協力、市職員の積極的な町内会活動への参加、ワークショップや研修などによる人材育成。協働を推進する体制の整備では、協働を担当する課の設置、市民を市がしっかりとサポートするバックアップ体制の充実が必要との議論が行われておりました。

3 ページ目の方ですけれども、こちらは、実際にグループ討議で出されていた主な意見の一覧が記載されております。職員研修会の開催結果については、以上となります。

続いて、資料の「苫小牧市協働のまちづくりセミナー開催結果について」を御覧いただきたいと思います。こちらは市民を対象としたセミナーで、今年の11月26日に開催し、

43人の方に参加をいただきました。推進会議からも谷岡会長、志方委員に参加をいただきました。

1ページ目については、講演・講義の要旨が書かれております。2ページ目の方を御覧いただきたいと思います。

「町内会が抱えている問題点と解決策について」をテーマとしたグループ討議が行われ、その概要になりますけれども、役員の高齢化と担い手不足については、全てのグループで議論されており、一番大きな課題となっております。解決策としては、やはり若年層の取込みが必要であるが、そのためには、しっかりと町内会の活動を情報発信し、町内会活動の見える化が重要であり、インターネットなどのITを活用することが有効との発表がありました。また、企業や他団体との連携が重要であり、市からの財政的な支援も必要との発表がありました。

3ページ目になりますけれども、こちらは、実際にグループ討議で出されていた主な意見の一覧が記載されております。市民向けセミナーの開催結果については、以上となります。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。ただ今の説明に関して、何か御質問はございませんか。それでは、引き続き事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） 会議のまちづくりセミナーとですね、職員研修会、小山田先生にお願いをしたんですけれども、そのときの雰囲気とかですね、講評するようなことございましたら、よろしく願いいたします。

●小山田副会長 あの、たまたま、そういう機会をいただきまして、どうもありがとうございます。同じテーマで両面から2点でですね、そのギャップの違いとか、それをつぶさに見ることができたんで、非常に私も参考になりました。

それではですね、市民の現場にいる自治会の方の熱意が非常に高いというのを感想として持ちました。危機感もあるということで、特に担い手の不足、それから、高年齢化というのは、もう喫緊の課題だなというのは改めて認識をしました。未加入者の対策をしながら、若い方をいかに取り込んでいくかっていう。それがやっぱり、動きとしては、運動として必要だねという認識ですね。具体的な対策については、他区、他市でやった例とかをですね、御紹介させていただいて、それで進めていただければ、ある一定の成果は出るのかなというふうには思います。

ただ、あの、職員の方の研修の方もですね、実は開催前から少し危惧をしてました。なぜかというんですね、まだ、そんなに困っていないんですね。町内会の高齢化も自分たちが直接の担当っていうかね、自分が入っている町内会で「その問題を議論してる。」というのをリアルタイムで聞いていれば、お分かりいただけるんだと思うんですけども、やはり「担い手が高齢化しているよ。」というのが、実感として職員の方が捉え切れてないということですね。それから、「まあ、予算が付けばいいのかな。」っていうような一部認識なのかなと。自ら入り込んでいって、「苦労を、自分の労力を提供しながらやろう。」という、まだ、その動機付けができてない段階だと思うんです。これがですね、本当に加入率が下がったりですね、50パーセント台になるとか、それから立ち行かない町内会が出てくる。限界町内会のようなものですね。そういったところを目の当たりにするとですね、相当、意識が変わって運動が変わるんだらうなといった感想ですね。ですから、まだまだ、職員の方は「苫小牧市の町内会は、まあ、大変な窮状にある。」というふうには、思っていない。「まだ、大丈夫だろう。」という感触を持ってられるなというのが、感想です。

総じて言うと、職員の方も町内会の方も非常に真面目に取り組んでおられるんでね。これ、あの、動機付けができて、いろんなやり方を武器としてね、スキルとして持たれると相当にいい協働のまちづくりができる素地はあるなっていう考えですね、感想です。これがね、本当に両方とも冷めちゃって、全然、こう「盛り上がらないな。」っていう感想を持つ町内会もあるんです。あの、本州の方のいろんな自治会でですね。そことは、違うという印象ですね。ですから、「まだまだ、ポテンシャルはあるな。」というのが感想です。以上です。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。改めて何か先生に対してとか、質問があれば。

●川島委員 じゃあ、ちょっと私から、よろしいですか。あの、小山田先生にはないんですが、その市役所への職員の研修（開催結果）の中の3ページ目にあるこの解決策、環境整備の4番目のところにですね、あの、ボランティア休暇の推進というものがですね、記述されております。

要するに、まあ、ちょっと先ほど、小山田委員の方からも、ちょっとお話があって動機付けという点に関してですね、苫小牧市の方でこういった制度をですね、今後、きちっと作るという方向があるのかないのか。そして、そういったものがあつたときにですね、あの、まあ、職員の方にね、積極的にこれらを使って、その各、今、住んでいるね、町内会への、まあ、何ていうんですか、いろんな活動をね、していただくとかそんな形でね、何かあるとやはり、こう町内会の方も、ああ、実際に行政の方が入ってきてね、いろんなこう、リアルな情報、あるいは、進め方なんかの指導をしてもらえるとという点で、非常に活性化されるのではないかなというのが、ちょっと、感じとしてあるんですが、現状はどうなんでしょうかね、今、市役所として。

○説明員（市民生活課長） あの、今のボランティア休暇あるいはそういった町内会活動に対する職員の対応ということについて、いろいろ御意見をいただいております、あの、私も実は、総務部の方と協議を重ねてきました。実は、具体的な方向性は、まだ見えていませんけれども、ちょっとですね、まあ、人事関係ということもありまして、やはり、国の制度との兼ね合いということの中で、まだ、一步、踏み出せていないというのが現状です。

で、まあ、今後ですね、職員の研修のあり方、そういったものを含めてですね、総務部とはやっております。まあ、何とか来年度中にはそこら辺、形は作りたいなどは思っているんですけれども、あの、そういった取組をしている状況であります。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。あと、何か御質問はないでしょうか。

●水口委員 はい。ボランティア休暇の件なんですけども、まあ、ボランティア休暇っていうのはですね、「ボランティア」って言っちゃうと「休暇まで取って、やるべきなのかな。」って。まあ、私はボランティア団体の委員をやっているものなんですけれども、そうではなくて、「自主的にやるのがボランティア」であって、「休んでまでやるっていうのは、それは、あの、職員だから認められるのか。」と。何かちょっと疑問というか、ちょっと、何かボランティアの考え方が何か違うんじゃないのかなっていう。まあ、できれば休暇じゃなくて、自主的に、「はい、町内会」と。

なかなか役所の人、いないんだよね、逃げちゃってね。あの、さっき、あの、小山田さんが言ったように、なかなかね、自主的には、なかなか出てこないのが現状なんです。そ

うというのがお利口なのかもしれませんが。まあ、それはやはり、自分の住んでいる町内会ということで、やっぱり自主的にやって欲しいというのが、まあ、私の願望というか要望ということですよ。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。あとは、

●小山田副会長 例えばその、ボランティアの休暇もですね、定年退職をされる前の1年間はスポット的に休暇を与えて、「自分が住んでいるところの町内会の活動に顔を出す。」っていう。そうすると、退職されてからスムーズに入っていけると思うんですね。

ですから、全部、制度でガチッと固めるよりも、ちょっと1年なり半年なり町内会長のサポートをすとかね、そういう機会を作った方が実質的で効果的だというふうには思います。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。あと、何か質問は。

●川島委員 まあ、ちょっと質問じゃないんですけど、今、ボランティア関係ということですよ、ちょっと、あの、最近、いろんな個別企業がですね、あの、まあ、企業の社会的責任というような観点からですね、あの、例えばその、地域の清掃活動であったりですね、あの、いろんなこう、お祭りもそうなんですけど、「関わりを持ちます。」というのがあって、一見、パッと、はたから見るとね、「あの企業、よく頑張ってるな。」というようなね、印象を受けるんですが。その反面の中でね、内実的なところでいうと、そういう行為をすることによってですね、例えばいろんな発注業務とかね、あるいは、そういったところでのポイントが重なるというような部分もね、あの、あるというのが一つ現実でね。

あの、ですから、そういうのをこう、加味すると、やっぱり、こう、できるだけ職員の方もね、まあ、あの、例えば「職員の貢献」というような形でね、あの、何らかに携わって、それを、まあ、「ポイント制」みたいなね、形で。「皆さん、全体的に頑張りましょう。」とか、そんなのが、今後あってもね、いいんじゃないかなっていう、ちょっとそんな気が。やっぱり、動機付けがないとね、難しいかなという気がしています。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。それでは、引き続き事務局から説明をお願いします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい。それでは今後の予定と次年度の取組についてということなんですけれども、資料の説明に入る前に、ただ今、報告させていただきました職員研修会と市民向けセミナーの結果を踏まえ、市として今後、予定している取組について、市民生活課の方から説明をさせていただきます。その後引き続き、私の方から資料の説明をさせていただきますと思います。

それでは、石井課長の方から説明をお願いします。

●谷岡会長 よろしくお願ひいたします。

○説明員（石井市民生活課長） この一年、今いただいた御意見、常に私の周りで付きまっております。あの、非常に厳しい環境の中でごもつともな御意見だと思っておりますし、私自身もですね、非常に反省をしなければいけない。もう少し、回りを見なきゃいけないというような感じを持ってまいりました。本当に、いろんな場面で町内会活動、あるいは

は、協働のまちづくりというものが、これほど私の周りに飛び交った時代はなかったかなというふうに思っています。

で、今ほど報告ありました「まちづくりセミナー」、それから「職員研修会」。それから、まあ、この会議もそうなんですけれども、いろんな本当に身に迫る危機感というか、そういうのを身を持って感じてまいりました。昨年、秋から私ども積極的に単位町内会に出向いて、膝を交えて、顔の見える関係の中で「本当にこうなのか。」ということ、顔を合わせながら四角四面の会話ではなくてですね、そういうような中で、一番感じたのは、やはり情報の発信ということで、「市民に対しても」、それから「町内会に対しても」、今、お話にもありました「職員に対しても」、全くそういった情報が伝わっていないんだということは、痛切に私ども受け止めております。したがって、こういう3本の柱、「市民に対すること」、それから「町内会に対しても」情報を発信しなきゃいけない。「職員に対しても」、今、お話のあった内容について発信しなければいけないというふうに思っております。

こういう3本の柱を中心にですね、まあ、役所ですので、「予算だ。」とか「計画」、いろいろ言われるんですが、それを度外視にして、「できることからやろう。」ということで、今、すでに今年度末、来年度初めにかけては、情報の発信の手始めとしてですね、まあ、あの、転入時期でもあります。そういったことも含めて、キャンペーン、強化月間、それから各町内会で作成している会報展、そういったもので「町内会は何をやっているんだ。」ということ発信をしていきたいと、今、準備にかかっています。当然、リーフレットなんかもですね、他市の情報なんかを参考にしながらですね、進めていこうと。

新年度に向けましては、継続的に、例えば、公園祭り、港祭り、サンフェス（ティバル）そういったイベントの中に入って行ってPRをするようなことも含めて、やっていきたいというふうに考えております。とにかく、「できることからやっぺいこう。」ということで、具体的にこういう事業に対して「新たな予算」とか「事業計画」という部分は持っておりませんが、私どもが身を感じてやっていきたいというようなことを感じております。

まあ、その中で、市民自治推進会議のことも、それから市民自治推進課、連携を図りながら、いろんな場面で具体的に進めていきたいというふうに思っております。更にちょっと、まだ、今この場では申し上げられませんが、施策的な取組として、今、準備を進めている案件もあります。そういったことも含めながら、町内会、町内会連合会、それから、私どもが連携を組んでやっていきたいと。併せて商店街との連携ということについても、産業経済部とちょっと、まあ、情報交換だけですがやっております。それから、併せて不動産関係業界、団体に対してもですね、共同住宅入居者に対する協力、そういったことも懇話会等を持ちましてですね、依頼をしながら、そういった継続的に事業をやっていくということを取り組んでいきたいというふうに思っています。

職員の問題については、実は、本当に昨年のまちかどミーティングの席でもですね、強烈な御批判をいただきました。このセミナーを通してですね、実は、私自身が「そんなことはあり得ないだろう。」とは思っているんですが、やはり、時代認識なんですか。若い世代が町内会というものについて全く認識持っていない。まあ、親子での参加経験がないということなんだろうと。実は、私は恵まれていたというか、田舎育ちでもあります。今、住んでいる町内会でも「向こう三軒両隣」、非常に仲良く、まあ、班の中でも情報をいろいろお話をする機会だとかお付き合いもあるもんですから、そんなことはないだろうと思っぺいはいたんですが、「町内会って何。」っていう世代がいることが、やはり事実なんだと。これはもう、お恥ずかしいかもしれませんが本当にそういうふうに感じています。したがって、職員に対してもですね、先ほどの休暇の話もありました。まあ、公務員ですので、制度的な問題もあつてなかなか難しいんですけれども、それとは別に継続的に

掲示板等で職員に対して情報を発信していく、まず、「町内会は、こうですよ。」と。それから「入ってください。」というようなことを促していく。「加入手続は、私の方でやりますから。」というようなことから入っていくと。

ただ、やはり、職員の中にはですね、それをやりますと「すぐ役員をやらされる。」というようなことが、やはり生の声としてはあります。それは、もう、私自身も言われておりますんでね、それは分かりますんでね、まあ、そこら辺も町内会にやっぱり理解は必要かとは思いますが。まあ、行政組織の非常に苦しい時代ですので、自由時間がなかなかないということもありますんで、まあ、職員に対してもできることから、まあ、「協力していくように。」というような投げかけを継続してやっていくことによって、まあ、1人でも2人でも入っていればいいかなというふうに思っていますし、業務的に町内会に密接な業務を持っている職員は、その危機感というのは持っております。しかし、やはり、直接的に関わらないところはなかなか、あの、難しい部分があるなっていうのを、実際、感じているところでもあります。そういうところを取り込みながらですね、何とかこういった場を活かしていればいいかなというふうに思っております。

特に来年度に向けては情報発信、この3本柱を中心にやっていきたいと。併せて他の自治体での活動なんかもまた、小山田先生なんかの御指導いただきながらですね、進めたいなというふうに思っております。具体的にこの場でこういうことをやっていくという説明はできないんですが、あの、1年間通して本当に身に迫る思いを感じた中でやっております。

ただ、町内会の方からは、最近、聞かれます。やはり、「役所も最近、動くようになったね。」っていうふうに言っただけの機会も、やはり、実際にありますので、それは、やっぱり効果かなというふうに思っております。できるだけ職員に対しても「歩け。」と。「その中に歩け。」と、「電話1本で済ませるな。」と、「文書1本で済ませないように。」というふうに言っておりますので、そういう部分では、いくつか町内会からはそういった声も聞かれておりますんで、やはり、究極にすぐ変えられるものではないと思いますけれども、それを積み重ねていかなければならないというふうに思っております。

一応、あの、これまでの思いとですね、報告をさせていただいて終わらせていただきます。よろしくお祈りします。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。

あの、僕から補足で言わせていただきますと、今の、あの、課長さんが言われるように市民の保険なんかも今、一本化をして、定額で保険が入るんで、いろんな行事、いわゆるボランティアの行事があつて怪我をした場合でも保険の適用ができるとか。また、街灯についてもLED化になって、いわゆる、ここ10年間くらいは電気は消えないということで、そういうようなこともやっていただいております。本当に助かっております。以上です。

あと、事務局の方から「市民自治推進会議における今後の取組について」の御説明をお願いいたします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、私の方から「市民自治推進会議における今後の取組について（予定）」と書かれた資料について説明させていただきます。資料の方、よろしいでしょうか。

まず「1 報告書の作成について」ですが、今年度、推進会議では「市と町内会との協働について」をテーマとして議論を行ってきました。これまでの議論の経過及び検討内容を明らかにし、公表していくことが必要と考えていますので、報告書を作成したいと考え

ております。また、これまでの議論で市と町内会との協働について、問題点や解決策ということも見えてきたということもありますので、市民自治推進会議としても報告書だけで終わるのではなく、何か具体的な取組として行っていきたいと考えております。そこで、市民自治推進会議における次年度、平成28年度の取組として、2番の「町内会加入促進のモデル地区への支援」ということを行っていきたいと考えております。

モデル地区への支援がどういったものかといいますと、資料にもありますとおり、まず、モデル地区になっていただける町内会を募集します。応募のあった町内会とヒアリングの上、1町内会を選定させていただき、その町内会に対して「町内会のフェイスブックの開設及び情報更新の支援」、「QRコードを印刷した加入チラシの作成支援」、「加入促進チラシの配布及び未加入者に対する訪問支援」といったことを行っていきたいと考えております。

事務局からの説明は以上となります。

●谷岡会長 はい、ただ今の説明に関して、何か御質問はありませんか。

●栗山委員 ちょっといいですか。私も過去に実は市の職員だったものですから、あの、まあ、職員だったときには立場が弱いといいますか、あまりこう、反論できないような立場だったんですけど、今、辞めて他の仕事をしてるものですから好きなこと言えるんですけども。まあ、実際にその、市民の目から見るとやっぱり「市の職員は、やって当たり前」というようなところはあります。私も昔、除雪とかで、朝から晩まで苦情を言われ続けていたものですから、そうすると、やはり、ある程度、対等の関係ではないんですね。それをやっぱり市の職員としてはやっぱりこう意識改革せざるを得ないということを弱い立場で言ってたんですけど、やはり市民の方もですね、やはり意識改革するような、そういう「動機付け」って言うんですかね、それが必要でお互い対等な関係になってかないと、多分、うまくいかないんじゃないかなと思います。

市の職員も単独で町内会にこう入っていったんでは、やはりなかなか難しく、やっぱり、制度、システムとしてチーム作ってですね、例えば「この地区に住んでる職員」、ある程度チーム作ってこう入っていかないと、やはり難しいのかなというふうに思います。で、まあ、一つにはその地域の職員ですので、やっぱり、その地域とともにこう、一生を終わるような、歩んでいく立場です。

まあ、昔あの文化活動ですとか体育連盟、体育協会の仕事もいろんな剣道連盟とか柔道連盟とか、結局は市の職員がかなり中心的な役割を果たしたんですけど、最近はどう仕事もすごく忙しくなってますね、多分、40年くらい前の倍くらいの仕事、業務量は市の職員にもかかっていて、まあ、毎日、夜遅くまでやっているという状況の中で、なかなか「やれ。」といっても、なかなか難しいんですね。そこら辺をどう改善していくか。やっぱり、市民の方とですね、うまく話していかないと、なかなかこれは難しいと思うんですね。

まあ、お互いにこう、丸投げの形じゃなくて、対等にといいですか、うまくこう、協働していくようなシステム作りは必要かなというふうに思います。以上です。

●谷岡会長 どうもありがとうございます。それ以外に何かありませんか。

●川島委員 じゃあ、ちょっと私の方から、あの、これ今、2点目にあったモデル地区の支援ということですが、これは、例えば28年度の1年なのか、あるいは、数年にわたってというようなものなのか、これは、どういうふうな考え方ですか。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、まず28年度ですね、モデル地区として1町内会に対して支援を行わせていただきまして、当然、実施した結果というものを検証しまして、それが効果的な取組となればですね、やはり、今後、活動を広げていくというような方向性も当然、ありますし、なかなか効果が上がらないものであれば、やはり、見直しを行って、また別の方法を考えるというような選択肢とあると思いますけれども、まずは、28年度取り組ませていただいて、まあ、その結果を元に、更にその、翌々年度についても検討していきたいというような形で考えております。

●川島委員 そうなると、まあ、1年間ということ、その活動の成果を見ていくということですね。例えば、ここでの予算化という部分では、あの、どうなんですか。一応、こういう枠、例えば50万とか、何かそういうような形で何かやっていただくとか。それは、今後の課題ということですかね。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） 現在、次年度の予算としてはですね、まあ、あの、すでにちょっと、予算の方はこの計画をする前にすでに終わっているということもあります。ただ、あの、市民自治推進事業費というものがあるんですけども、そちらのお金の方も考慮しながらですね、やっていくということもありますし、また、あの、モデル地区に選定された町内会さんからも、もし、そういったお金の面でのお話も、まあ、それは話し合いになるんですけども、そういったことも含めてですね、いろいろ、予算についてはやっていきたいというふうに考えています。

●川島委員 何でこんなこと言ってるのかっていうと。まあ、「モデル地区、どなたかありませんか。」と言ったときに、やっぱり何らかのうまみがないと手を挙げないんじゃないかなという気がしたんで。あの、今、ここで、「ある程度のこうメリットがね、ある。」って、「早く手を挙げてください。」っていうような形で言う方がいいのかなっていう、ちょっとそんな気もしたもんですから。

「いや、全然、実はあんまり予算ないんで、町内会の持ち出してお願いしますよ。」ということになったら、果たして、そこら辺どうなのかなという部分もちょっとあったりしたもんですから。まあ、本当、ある程度、こう、「ああ、これはかなりメリットがあるね。」っていうことが一目瞭然的なね、形でもいいのかなっていう、ちょっとそんな気がしてます。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。後は、何か御質問はありませんか。

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） よろしいですか。今回、推進会議としての取組として2番目の部分を挙げさせていただいた経過っていうのは、皆さん御想像のとおりかと思えますけれども、まず、町内会自身の問題として「若年層の参加がなかなか見込まれていない。」という現状があって、「役員も不足している。」と。それで、「じゃあ、実際にその加入促進のために、どういう手段を講じていくのが効果的か。」という議論が会議の中でなされていたかと思えます。それで、当然、まず、「チラシをただ配っても駄目で、やっぱり、それは効果的な、インパクトのあるようなチラシを配って行って、しかもそれは、いないことを前提に入れて行って、QRコードを付けて行って、見れるようにしよう。」と。そういうようなお話が議論としてありました。

それから、もう一つは、その、「市の職員が、なかなかその町内会側にコミットしていないのはどうなんだ。」っていう議論も、これまでの議論の中で大きいところだったという

ことなんですね。

それで、まあ、いろいろ、これから施策を進めていくに当たって、じゃあ、まずは、先ほど石井課長の方からも御説明させていただいたんですけれども、「まずは、動いていくことが大切なんではないか。」ということですね、それであれば、まず、フェイスブックが。

ホームページっていう考え方もあったんですけれども、なかなかホームページになるとですね、レイアウトをどう作っていくかという問題が現実の問題としてあるので、まずはその、フェイスブックというツールで立ち上げて、それで、まあ、当然、それは「どういうコンテンツを載せていくのか。」というのは、町内会側、希望のあった町内会さんと当然、協議をした中で進めていかないとなりませんし、また、あの手を挙げてもらうということは、やはり、基本的にはそれを支援していくということになりますので、町内会さん側にも「どういうサポートがよいか。」というお話を聞きながら、作業を進めていきたいと考えているということです。

それで、まあ、実際にまず「どれだけのニーズがあるのか。」というところもあるんですけども、手を挙げていただいた町内会さんとはしっかりと、私どものコンセプトを説明しながら進めていきたいなという考えです。

それで、当然、推進会議としての取組ということになりますけれども、委員の皆さんが実際にその夜間訪問してもらうとかということには、やはりならないのでですね、そこは、私どもの方で事務的なことは進めていった中で、やり方等々の、例えば「修正」であったり、まあ、コンテンツの部分でですね、「見直した方がいいのではないか。」とかですね、そういう意見を踏まえながらですね、推進会議としても携わっていきたいというようなことで、今回、御提案させていただいたということになりますので、よろしく願いいたします。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。

●川島委員 ちょっとよろしいですか、ということは、基本的には町内会が主体で動いていて、その後の足りない部分を行政がフォローしていくんだという考え方なんですか。

私はこれを聞いたときにね反対だと思って、行政が主導して行って、そして、随時、町内会の意見を取り込みながらモデルを作っていくのかなっていうふうにちょっと感じたんですけど。その辺、どちらですか。

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） 手を挙げていただいたその町内会と調整をして町内会自身の取組としてやっていただくことを前提として、市がそれに対するサポートをしていくというような形になります。

というのは、単年度限りの、何年も例えば、1町内会を支援していくという形には、現実的にはならない部分もありますので、それで、今回は、まず、手を挙げていただいて、「やっていこう。」というような町内会に、しっかり支援をしていくというような考え方でございます。

●谷岡会長 御理解いただけましたか。

●川島委員 はい、御理解というか、なかなか、それが難しいから動かないのかなというふうにちょっと思ったもんですから。それだったらモデルというものに果たしてなるのかなっていう、ちょっと気がしたもんですから。

●山本委員 すいません、いいですか。

●谷岡会長 はい、山本さん。

●山本委員 あの、私ですね、6、7年くらい前から町内会の役員を受けさせていただいてるんですよ。で、そのきっかけとなったのは、我々、青年会議所の方で、「町内会と、まあ、今、ここに出てる問題がある。」と。なので、「青年会議所として、是非、積極的に関わっていこう。」というところで、全メンバーの家の住所をピックアップしたんですよ。で、「どこの町内だから、あなたはどの町内に入ってくれ。」と、直接、もう要請がきまして。なので、当然、「いいよ。」というので入ったんですけど。まあ、ただ、現実、入ったけど、まあ、先ほど役員が不足しているとか、担い手がいないという話だったんですが、正直、私が感じてるのは逆でして、「やりますよ。」って言っても「いやいや、もう足りてるからいいよ。」とかいうような現状もあったりとか。

まあ、その中で、増やすするには、やっぱり、青年会議所以外にもいろんな団体がありますんで、そこに、今、言うような方法でピックアップをして、「是非、一人ひとり町内会に入るように要請してください。」ということであったりとか、あとは、あの、先ほど企業責任、CSRの活動ですとか、うちの会社もやってるんですよ、ごみ拾いをして。それは、企業PRという部分も、多少、ないといえば嘘になりますけど、今回、うちがやろうと思ったのは、「地域に貢献できて、で、プラス、社員とのコミュニケーションが取れる。」というところが一石二鳥だなというところでやるようにしたんですよ。なので、そういったところを、まあ、民報さんであったりとか、いろんなところに取り上げていただいて、そういった企業がたくさん増えるというところでいくと、例えば市の方から各企業さんの方に要請をして、「各1人でも、町内会活動に出すようにしてもらえませんか。」とか、例えば、お祭りですとか、いろんな工芸品の展示会とか、教室とか、いろいろ、町内会やってるんですよ。そういった行事があるときだけでもいいんで、「その地域の企業さんから出してくれませんか。」とかいう要請があれば、協力はしてくれるんじゃないかなと。

特に、うちあたりも大型車両で地域に迷惑を掛けている部分もあるというところは、やっぱり、地域と仲良くしておきたいというものもあるものですから、そういったところで要請をされると、当然、「いいですよ。」というふうにはなると思いますんで。まあ、いろんなパターンがあると思いますんで、是非、いろいろ、当たってみていただきたいなということと。

あと、今年度、青年会議所の一委員会です、あの、地域の隣近所のコミュニケーション。まあ、先ほど石井課長が言われてましたけれども、その連携を強化していく取組をしようと思ってるんですよ。例えば何か災害が起きたときであったりとか、あとは、急病があったときとか。極端に言うと、昔のその、何ていうんですかね、「醤油ちょっと足りないから貸して。」とか、いうようなコミュニケーションって全くない。だけど、そういった災害のときには警察だったり、消防、救急っていうのが来る時間っていうものが本当に足りるのかと。じゃあ、その間に「町内で助け合えれば、どれだけまだ助かるものがあるんだ。」というような。やっぱり、それからいくと、「町内の、隣近所の連携っていうのは大事だよ。」というような発信を、今年度していきたいなという委員会もあるものですから。まあ、そういった部分では、是非、一緒にですね、活用し合って、あの、一人ひとり市民にできるだけ多く伝わるように、是非、(青年)会議所としても協力をさせていただきたいなと思っておりますので。是非、そちらの方もよろしくお願いします。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。それでは、引き続き事務局の方から説

明をお願いします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい。それでは、最後の資料になりますけれども「市と町内会との協働について（検討内容）」を御覧ください。

先ほど、これまでの推進会議での検討内容を報告書として作成するという説明をさせていただきましたが、これまでの推進会議での議論、町内会へのアンケート調査結果や町内会活動の事例発表、職員研修会及び市民向けセミナーの開催結果などをもとに市と町内会との協働についての課題や解決策を大枠として3項目お示しした資料ということになります。ちょっと簡単に資料の方を読ませていただきたいと思いますけれども。

まず、人材について。町内会では、役員の高齢化や担い手不足、負担増といったことが大きな課題としてある。そのため、若い世代の取込みが必要と多くの町内会が認識している。若い世代を町内会に取り込むためには、ホームページやフェイスブックなどのITを活用することが有効と考えられる。

未加入者を増やさないため、転入手続の窓口付近に町内会加入の案内や転入先の町内会一覧を設置し、転入者に対する加入促進の取組を行っている例もある。また、オートロック式のアパートで未加入の場合には、大家の協力がなければ、加入してもらうことは困難である。

町内会活動を行っていく上で人手が必要となるため、スーパーやコンビニエンスストア、地域の企業等にも協力を要請するなど人材を確保し、役員の負担を軽減していくことも必要である。

情報について。町内会の活性化には、やはり町内会活動の「見える化」ということが重要であり、町内会に加入しない要因の一つに「町内会が、何をしているのか分からない。」といったことが挙げられる。まずは、町内会活動をしっかりPRするという情報発信の強化が必要となる。

多くの町内会で会報やチラシなどを配布しているが、若者にはあまり見てもらえないといった現状があるため、若者への周知には工夫が必要である。

他の町内会との情報共有のため、各町内会の総務部長や会計担当部長などのように、部門ごとに担当者が集まり、実務的な話やざっくばらんに話せる機会があるとよい。また、各町内会の活動状況やよい取組などをいつでも知ることができる体制を整備するなどの情報共有が必要である。

その他。市や町内会連合会は、町内会役員と情報交換を行うなど、町内会の課題をしっかりと把握し、積極的に町内会の課題解決に向けて取り組む姿勢が必要である。

町内会では、多くの問題を抱えているが、町内会単独で解決が困難なものもあるため、他町内会や他団体との連携の橋渡しを行ったり、広報とまこまいを利用して町内会の取組を周知することや町内会ポータルサイトのようなものを作るといった支援も考えられる。

他にも財政面での支援など、市や町内会連合会が様々な方法で町内会をバックアップする体制が必要である。

今、読ませていただいたこの資料をですね、基に、更にこの書かれていることを掘り下げていただいたりですとか、まあ、補足していただいたり。あるいは、この資料に載っていないものでも当然、構わないですけども、残りの時間の中で御議論いただきまして、これまでの議論と今回これから議論していただくもの、そういったものを踏まえて、次回の推進会議で報告書（案）として事務局の方でお示しできればと考えております。

ここから、谷岡会長の進行で御議論いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●谷岡会長 はい、分かりました。これにつきまして、皆さん方、各委員から御意見をいただきたいと思います。山田さん何かありますでしょうか。

●山田委員 町内会の加入促進の、先ほど話があった件だったんですが、モデル地区を選ぶということなんですが、本当に1町内会で、まあ、先ほどの説明だと、その結果、「もしかしたら、それで終わるかもしれない。」「結果がよくなければ、それで終わるかもしれない。」みたいな話もあったんですが、そのモデルケースとして1町内会で本当にいいんだろうかというふうに思うんですが。あの、まあ、ペースが。量が少ないのとペースが遅いのと、何かそれがちょっと気になるなと思うんですが。まあ、具体的な取組として、こういうパンフレット作ったり、チラシを配ったりするっていうのは、とてもいいことだと思いますし、今までやってなかったことということで、具体的な取組だになっていうのはすごく理解できるんですが、やっぱり何か、「1町内会で、本当に足りるんだろうか。」っていうのは思いました。

あと、最初のところの職員研修会の話で小山田先生から感想を聞いたんですが、職員の方たちの、その、動機付けができてなかったり、実感が湧いていないというようなお話があったということなんですが、確かにそれを、公務員で関わっている方たちが、そういうふうな意見を述べられたということは、ある意味ちょっと何かショックというか、「そうなんだ、意識が低いんだ。」っていうのはすごく感じたんですけど、いや、でも、考えてみれば、「まあ、一市民の方と同じような意見を職員の方も持ってらっしゃる。」ということで、まあ、「関心がない。」し、あの、「町内会に関心がない。」「何をしてるかよく分からない。」っていうようなことは、まあ、大してびっくりすることじゃなかったのかなとは、冷静になればそういうふうに理解できたんですけど。まあ、だから、職員の人たちの意識が変われば、市民の意識も自ずと変わってくるのかなという感じもあります。

それと、先生が言われた、職場の、現場の方は熱意があるということで、それはすごい救われることだなと。そこがもう少し盛り上がっていったら高まれば、本当に希望はあるなというふうに思いましたけれども。そんなような感想を持ちました。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。喜多さん何か。

●喜多委員 感想として言わせてください。

●谷岡会長 いわゆる市と町内会との協働についてということで中心に考えていただければ。

●喜多委員 まず、お話の中で苫小牧市協働のまちづくりセミナーの開催結果の2ページの中で、解決策の中で「子どもの行事を通じて親を取り込む。」という項目があるのですが、あの、子どもの行事を通じて親を取り込むということで、各町内会で学校の方に出向いて、昔遊びの授業を町内会の人から1時限、若しくは2時限持ったり、花壇整備とかでは関わってます。関わっている中で、じゃあ、関わったとして、「じゃあ、町内会への興味があるのか。」っていうのは、それはまた、別物の話なのかなというふうに私は感じております。

この「発信する。」、この「QRコードを使う。」「フェイスブックで発信する。」なんですけど、活動を可視化させたからといって、「じゃあ、加入します。」という話になるのかというと、これはまたこれで、ちょっと違うのかなというふうに感じる部分もあります。具体的に言えば、掃除したり、ごみ箱の整備に行ったり、何したりだとかだと思ってしまうけれども。まあ、これ、当然、いい悪いではなくて難しい課題であると思います。

で、ちょっと歯がゆいなと思うのは、もし、この町内会に若年層の方を取り込むという考えであれば、例えば、これ、ちょっと話は突拍子もないですけども、PTA会費って徴収してますよね。この徴収費を各学校任意ですけども、一部200円、1人200円なら200円くらいを多く取って、町内会に財政的に少ない部分、いろいろ街灯とかやっているという部分で、町内会の方にPTAから、まあ、見守り代ではないですけども、何らかの財政支援を徴収して。まあ、強制加入はできないので、結局、人の問題、お金の問題が出ると思うんですけども、お金の問題でいけばそういった町内会に、例えばPTA会費にプラス100円、200円したら、例えば「学校内の事故でなくても、公園で遊んだりしたときの事故のトラブルもカバーする保険も付いてますよ。」とか、何かうまみもプラスした上で、そういう会費であればなというふうに感じるのですが、以上です。

なぜかと言うと、PTAに入りたくない人も「子どもの保険があるから会費は払う。ただ、大して協力はしないよ。」と、だけど保険代は子どもの事故があるから、保険代が安いから、その部分で、うまみですよ。それだけで入るといえるものがある。何か財政的にそういうお金を財源的に取ればいいのかと、ちょっと思いました。感想意見です。以上です。

●谷岡会長 水口さん、何か。

●水口委員 これ、直接、協働に関係するのかっていうのは、分からないんですが、あの、私の町内会においては、今のところはすごく加入率は、多分、今の現在で88パーセントぐらいだと。毎月、データ出て、まあ、あの、市の広報に連動してますんで、町内会の会議やる時に出してるんですけども。ただ、先ほど言いました喜多さんが言ったように、子供の行事があるときは、すごく「こんなに子供がいるのか。」っていうくらい、あの、参加者が多くなる。あめ玉も与えるという感じで多くなるんですけども。ただ、それがイコール、「それじゃあ、今後における町内活動に連動されるか。」「役員の手になるのか。」ったら、それはまた別な問題だと。

だから、結果的には、いつも、3月から4月は、役員人事の、いつも悩むんですけども、ただ、本当に1年に、ただ年齢構成だけが上がっていくと、それは本当は、課題であって、その、やはり、その役員やっている人は次代を育てなきゃいけないんですけども、それがなかなか、うまく回らなくて、だから、何十年もやってる人がいるっていうような今のところの状態ですよ、だから、我々も、やはり若い人を育てるっていうのは課題だけでも、なかなか功を奏してないっていうのが、実情です。感想としては、そういうことです。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。川島先生、ありますか。

●川島委員 はい。あの、まあ、最後の検討内容のところ、「良い取組」というようなお話があったんで。積極的にですね、「これは、すばらしいな。」というところをこう一つ、その町内会に表彰をしてあげるといえるのをですね、具体的に出したらいいんじゃないのかなと。まあ、企業さんもいろんな貢献に対して表彰というのがあるんで、町内会もですね、そういうような形で「全苫小牧の中のベストワンですよ。」みたいな。そんな形でですね、あってもいいのかなというふうの一つ感じています。

また、そういった取組の周知という点で、広報とまこまいの利用というのもそうですが、新聞の紙面か何かでね、連載という形ですとですね、出してもらおうというの、みんなが見る機会があるので、いいんじゃないかなというふうに思います。そういうふうな形

で、どんどん、こう、メディアの方の御協力もいただきながら、こう、地域の活性化にね、協力してもらえたら、ありがたいんじゃないかな、そんなふうに感じます。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。栗山先生。

●栗山委員 今回の川島先生の御意見に全く同感なんですけども、やはりその、「いかに仲間を増やすか。」っていうのが大事かなというふうに思います。

先日、福祉のまちづくりの会議がありまして、その中でも、今、福祉関係やっているとか、まちづくりに取り組んでいる団体を表彰しようという制度がありまして、そういう、何ていうんですか、いろんな取組がこう、分かるような形になってくれば、そういうところでも表彰できるんじゃないかなと思います。

で、やはり、全体的にこう、何ていうんですか、知識量というんですか。認識をやっばり教育するということが、まず第一で、「やはり、なくなれば困りますよ。」ということはある程度知ってもらうことも大事かなと思います。

苫小牧の場合は、この前、NHKのクローズアップ現代で町内会のことをやってましたけども、かなり行政がやっている部分が他に比べたら多いですよ。そういうことも、行政としてPRしてってもいいのかなというふうに思います。以上です。

●谷岡会長 はい、では 山本さん、何か。

●山本委員 はい、あの、先ほども一部言ったんですが、企業、特に市からお仕事をいただいているというところに関しては、その部署は別としても、やはり「市から要請を受けたら、」っていうと、やっぱり変な言い方をすると「弱い」というか、「協力をしますよ。」というスタンスはやはり持っていると思うんですよ。なので、そういったものを是非、利用していただきたいなというのと。あとは、いろんな会、ボランティア団体等たくさんあると思いますんで、そこに是非、呼びかけていただくと、もっと具体的になっていって、町内に一人二人というふうに若者が出てきてくれば、その若者から何ていうんですか、人を増やす専門の部署というか、そういう部分を作れるだけの人数が揃ったら作って、そこから人をどうやったら入れるかというところを専門的に話し合えるような部署が町内にあって、そうなれば、きっとその中で、この町内会であったり、会費の意味合いとかいうものを、当然、皆さんに伝えて理解をしてもらわなければいけないというところになってくると思うんで、そういった発信というの、より効率的になっていくのかなというところと。

先ほど、喜多さんが言われていた、学校とか町内会費としてじゃなくて別なところでの会費から徴収するというようなところも、是非、まあ、いいんじゃないのかなと。というのは、交差点で御年配の方が毎朝、天気関係なしに立っていただいているんですよ。私も子供が小さい頃から。やっぱり、あの人たちが「いる」、「いない」では、親としてはすごく違うんですよ、安心感が。なので、家族内でちょっと話していたことが実はありまして、お金っていう価値ではなく、あの人たちは気持ちでやっていただいているんですけど、それでもやっぱり続けてほしい。続けてもらえるのであれば、何かしらの、何て言うんですかね、お礼というか、まあ、「こういったもので、是非、継続してください。」というお願いすらもやっぱりしたいなど。いうぐらいに町内の方にはお世話になっているというところは、すごく実感してますんで。まあ、そういったものを感じてないわけではないと思うんで、是非、そういった感じているところを何かで「町内会を理解してください。」というところを。今、表に出て「いいなあ。」と思っただけのもの、例えば町内のお祭

りもそうですよね。そういったものも「町内会があるからなんだよ。」と、まあ、「皆さんの協力あっての事業なんだよ。」というところを前面的にPRすると、「じゃあ、やってみようか。」っていうふうにもなると思うんで。是非、一個人としてもそうですけど、青年会議所としてもここは是非、一緒に頑張っていきたいなと思ってますんで、何かございましたら是非、よろしくお願いします。

●谷岡会長 小山田先生、何か。

●小山田副会長 職員の方の研修とそれから町内会の研修と両面ですね、問題点まとめていただいたやつを見比べていただくとお分かりになると思うんですけども、特に情報のところがね、「何をやっているか分からない。」とかね、「抱えている問題を知らない。」というのが出てくるんですよ。これね、最近の情報がないということは、町内会の活動をね、おそらく昭和のレベルで見てるんだと思うんです。今、相当に求められていることもやれることも様変わりしているのに、これじゃあ、やっぱりもったいないということで、発信しましょうということでフェイスブックとQRコード入りのチラシの話をしました。

問題はね、中身なんです。コンテンツなんです。それで「知らしめるようにしましょう。」といった大きな点はですね。例えば「町内会長になったらこれだけ負担がありますよ。」と。「1か月、何日使います。」と。「1回当たり、何時間使います。」、「年間の行事予定はこうで、私は町内会の会長として何時間の時間を提供してます。」ということクリアにしよう。そうすれば、「町内会の会長になると、その時間は、提供しなきゃならないんだな。」ということが分かるんですよ。で、人によってはね、「朝から晩までやってる。」ように話をするんですよ。そうするとね、ものすごい負担感で圧迫されて「自分は、絶対なりたくない。」と。これ、本能ですから、必ず逃げるわけですよ。そうじゃなくて、「会計だったら、決算の時期はこのくらい。」、それから「防犯だったら、このくらい。」とかね。そういう、まあ、「子供の支援だったら、年間このくらい負担になります。」とはっきり出した方がいいですよ。私、あの、町内会の方たちに最後に言ったのはですね、「あれしてくれない。」、「これしてくれない」、「これやれ。」、「あれやれ。」じゃなくて、「自分がその地域のために何ができるのか。」っていうことを言ってくださいということを話をしたんですよ。

結局ね、最後、コンテンツはね、そこまでいくんですよ、どんどん、質が上がって行って。「私は、これだけのことができましたよ。」ということ胸を張って言えるようになるんで。そうすると、先ほどの表彰の話もね、セミナーの中でしましたよね、ソフトの報酬だと。「ハードって、お金もらうんじゃないで、褒められると。名誉っていうのはソフトの報酬ですよ。」っていうのを話をしたと思うんですけども、そういったこともそこから自然と出てきますから、中身をね、少し仕掛けをしておいた方がいいです。

町内会長の1年なんていうと、どのくらい負担があるのかということ。本人に「負担」って言わないで、「これだけ貢献させてもらっている。」って言ってもらった方がいいですよ。そうすれば、市の職員の方もね、OBになってから役員になるとき、びびらないで済むんですよ。

もう一つは、モデル地域を設定したときに、ここら辺で出た、拾った課題は、全部クリアにしておいた方がいいですよ。「モデル地域の中に市の職員の方が年代別で何人くらいいる。」とか。それから、「再任用が終わって、本当に定年になってから、地域の町内会に入って役をやっている方が何分の何。」というくらいはね。これはね、モデル地域を決めたら公表しないとね、一方通行になるんですよ。「こういう背景の地域で、これだけのことができたよ。」っていうことを、やっぱりちゃんとやらなきゃならないと思います。そんなところですね。

だから、ツール。フェイスブックとQRコードを準備したら、そのときに「次は、何をしたらいい。」っていうタイミングでね、そういう「役員、お役立ちシリーズ」でも何でもいいですから、「このぐらいの負担、というか貢献ができますよ。」と。「役員になったらこんなに貢献できるんですよ。」っていう話をしたらね。

実際に本州の町内会なんかは、役員に。この前のNHKのクローズアップ現代ですよ、ね、「役員になれないんだったら、町内会を辞める。」って話になって、辞めたらどうということが起きたかっていうと、街灯のランプを外されて、それから、ゴミステーションを使用不可にされたっていう、こんな事例が出てました。でもね、苫小牧の町内会の方、そこまでやりませんから。

徹底しないと、やっぱりいろんなものがクリアになってこないんで、おそらくそんなところじゃないかなと思います。

●谷岡会長 どうもありがとうございます。時間がまだありますので、自由な討論をしていきたいと思っておりますので、どうぞ、御遠慮なくお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。どうですか、喜多さん、2回目。

●喜多委員 はい、あの、小山田先生が言っておりましたが、コンテンツっていう。私もずっと「コンテンツだろうな。」と思っていたんですけど。これも、フェイスブックで発信するのでも、「何を打ち出していくのか。」ってことがものすごい大事で、既存の活動なのか。だから、さっき言った「うまみがある。」って話があったじゃないですか、うまみが正にそのとおりで、例えば「市で、あるターゲットを絞って。」

僕はPTA会長とかで子どもの方ばかりですからあれですけども、僕だったらと思うのは、「市の方で自転車保険を掛けます。」と。町内会に入ったら、学校の保険ではなく自転車保険。「自転車保険の一部だけを負担できるものを、町内会に入ってくれたら子供にカバーしますよ。」とか。「こういったことをカバーします。」と。要は「ああ、それなら、私、払うわ。」と。こういう活動をしている。「そんなもの、当たり前だ。」と思われなくて、「それ、俺、払う。」っていうものを打ち出さないといけないのかなというか。

PTAも情けない話なんですけど、私もやってて、やっぱり「保険代」だったとか、その「交通安全の人の見守り代」というか、何かあるからってやってるんですよ。ただ、その中には、町内会の方が事業をやってくれたり、いろいろしてるんですよ。ただ、そこはもう、「それは、それ。当たり前だ」っていう親の認識がもう、そういうものですよ。それとこれ、別なんですよ。「じゃあ、入ってくれ。」ったら、「いや、私、入りません。」っていうのが実態なので、何かそういう。

子育て世代がそうだし、高齢者だったら高齢者にこういう、例えば町内会で、まあ、民生委員がやってるんでしょうけど、見守りをしたりだとか、そういった、何か安心安全のコンテンツを足すだとか、その世代その世代で町内会を活用するための、ある意味、多少、町内会費を上げることができるかどうかは分かりませんが、何かしらのことをしてカバーしていく。要は、一つの利用価値のあるものっていうんですかね。そういうものにしなないと、その、結局は「頑張っている町内会の人」と「かたくなに頑張っていない人」の差で「俺は、嫌だ。」っていう人とかもいるので、この人たちの区別で嫌になる人たちもいるので、やっぱり、「この保険を使いたかったら、市でこういう国の保険、団体保険、利用できますよ。」とか、何かあったらいいんじゃないのかなと思っています。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。

○事務局（中村市民自治推進課長補佐） 先ほどから「発信するコンテンツが大切なんではないか。」という議論がずっとあるんですが、私どもも正にそう思っています。フェイスブックとチラシっていうのは外形的なツールであって、やはりそこにアクセスしたんだけどもなかなか面白くないということであればですね、やっぱりそこから先はちょっと進んでこないという認識は持っています。

それで、あの、町内会を実際にですね、選定していくに当たってですね、まあ、当然、「その体制が取れるか。」ということもお話させていただくんですけども、「コンテンツというか、活動をどのように見せていくのか。」というところにも、私ども踏み込んでいかなければならないと思っていますので、当然、そこは町内会によっていろんな特色があるわけで、それは、ヒアリングを私どもの方でしていった中で「ここの町内会は、どういう強みがあるのか。」とか、特色を考えて、「どういうことをやりたいのか。」っていうのを正に話し合っていくのが協働であって。それで、基本的には、やはりこの問題っていうのは、「町内会側自身の問題として、自分たちがどういうことをやっていくのか。」ということが前提にないと進まない事業だと思っておりますので、そこは、逆にですね、町内会側さんとお話をさせていただく場面ではですね、そういう具体的なお話をしながら進めていきたいなどは感じております。

それで、あの、町内会側としてですね、今、あの議論は大体、「市がどういうことができるか。」ということを中心にお話してきたと思うんですけども、「町内会サイドの問題として、こういうことに取り組んでいく必要がある。」とかですね、あの、「こういうことに意識していく必要があるのではないか。」というような提言も可能ですので、もし、あの、そういう部分でですね、何か御助言とか考えとかがありましたら、併せてこの場で御議論いただければありがたいなと思います。以上です。

●谷岡会長 どうですか、水口さん。

●水口委員 いや、今、違うこと考えてたんですけど、ごめんなさい。

先ほど、小山田先生が言った、その、「貢献度にした。」っていう。「貢献度」っていうとすごくかっこうがいいんですけども、まあ、来週に会議がありますんで、ちょっとそれを皆さんに訴えて、「貢献度なんだから」と。

すなわち、各役員さんがやってる仕事は、あまり（見えていない）。やってるのは分かるけど、「それでは、ボリュームとしてどれだけやっているのか。」っていうのは、なかなか見えてないんですよ。見えてるようで、見えてないと。それが現状ですから。そして、それをあんまり公表することによって、「いや、こんなにやってるなら（役員になりたくない。）」と、そういう弊害もありますけれども、そういう「今、形で貢献してるんだ。」っていう。それを前面に出せば、意外とこう、何か、「こんだけ仕事してる。」のではなくて、「町内会にこれだけ貢献しているんだから」と、ちょっと、こう、「内容を開示してください。」というふうな形にすることは、いいことだなと思いました。

それと、情報を可視化っていうか、「町内会、何をしてるか分からない。」っていう、まあ、気持ち的には分かるんですけども、そうやってやると、何かやっても、「いや、やってるのにな。」って、何かちょっとね、悲しく思うんですけども、まあ、それが現状だなというのも分かりました。

●小山田副会長 例えばね、みんな会費払いながら飲食をしてる。その姿を傍から見ると町内会費で飲み食いしてるんだろなという、こういう見方をするのが人の本性なんですよ。だから、それをね、はっきり分かるようにしてあげるっていうのが、やっぱり必要

だと思いますよね。

例えば、あの、コンテンツのあれで、「町内会リレーエッセー」みたいなのをして、同じテーマで他の町内会でやってうまくいったとか、失敗したっていうのを事例でずっと出していくと。それで、1年間のシリーズでいけば「1回終わって、また違うテーマで。」っていう、そんなふうなやり方もあります。

●谷岡会長 どうですか、川島先生。

●川島先生 本当に関わろうかなと思っても、やっぱりね、さっき話したように、「役員になったりしたらね、どこまで、じゃあ、求められるのかな。」って。で、「1回引き受けたら、やっぱりある程度は責任を持たないといけないな。」というね、ところがね。「途中で投げたら、かえって御迷惑かな。」っていう、そんな気になっちゃうんですよね。

だから、まあ、私個人で言うと、町内会には入ってるんだけど、関わりはちょっとこう傍から見させてもらってるっていうのが現状なんです。

●小山田副会長 この間のNHKのクローズアップ現代で、もう一つの例が出てましたけど、町内会長さんなんですよね。役員の担い手が全然なくて、全役員、辞めちゃったんですよ。それで、御夫婦のところには、千数百っていう世帯のね、市政だよりが来るんですよ。夫婦2人で1週間かかって配架しているんですよ。それで、自分の時間のほとんどが町内会活動で消えてるっていう、そんな事例が出てました。もう、あんなったら大変ですよ、これ。ブラック町内会ですよ。

そうならないように、「標準的には、このくらいかかる。」、「時間、拘束されますよ。」って。「でも、それだけ、やりがいもありますよ。」ってことですよ。そうしないとね、本当にね、「朝から晩まで大変なんだ。」って言われた一言がずっと残るんですよ。

●山田委員 それが、あれですか、昭和の頃の記憶のままに残っているという感じなんですか。

●小山田副会長 そうです。見えないから「町内会って、大変なんだ。」と。「役員でもなかったら、もう、ひどい目に遭う。」と。

●山田委員 そこで止まってるんですね。

●小山田副会長 そうなんです。今はもう、全然違いますからね。非常にスマートです。

●山田委員 そう言われても、なかなかぴんとこなくて、やっぱりその、「町内会が本当に、何をやってるのか。」っていうのが、分かっているんだと思うんですよ、私自身が。

だから、もう少しその、やってることをうまく伝える。「これは、町内会に恩恵を受けて、私たちが生活してるんだ。」っていうのがもう少し分かるように、いい工夫はないでしょうかね。

●小山田委員 そうですね。あの、テーマをね、少し絞ってアピールするという。

例えば「子育て」っていうとお子さんのいないところは関係なくなるので、一番身近なところは防災ですよ。それで、防災をテーマに「この町内会の対策は、こういうふうになってる。」と。

私、紹介したのは、東京都の災害に強いまちづくりということで、あの地域で地震なり来てですね、津波なり来て、火災も起きると「東京壊滅」なんですよ。機械消防で一気になんかできないですから。いかに町内会に消火してもらおうかというのはですね、そういう取組を紹介をしたんです。そういうのっていうのは自分の役割もはっきりするしね。中学生を使うんですけども、どの中学生がどのおじいちゃん、おばあちゃんをどの戸板に乗せて助けるかっていう名前が全部決まってるんです、順番が、名簿になって。

それから、木造の家屋の密集地、いわゆる木密と言われるところは、火が点いたら終わりなんですけども、普通の消火器を家の回りに8本くらい置いて、その消火する担当者の名前も決まっているという。そんな例だと、東京も昭和50年からやっていますから、地震、火事には相当に今は強いと思いますよ、町内会の力ってね。そんなふうな事例を紹介するとかね、それだけでも相当違うと。

で、他の地方ですけれども、自治体の職員の方が退職をして町内会に入ると、まず、防災担当になると。で、役所時代にそういう防災のところってのは、知識ありますから、いざ、非常時になったら皆さん、制服来て、支援するんですよ。そういう体制になってるんで、町内会に入ったときに、まず、防災担当。いきなり会長とかにはさせないで、いわゆる負担が大きいところにはさせないで、防災担当でやってもらおうと。そんなふうなやり方をしているところもありますからね、これね、うまく知恵を絞るとね、上手に引っ張って来れるっていうやり方もあるんです。テーマの選び方の妙味なんですね。

●谷岡会長 栗山先生、また、何か。

●栗山委員 私の感覚では、町内会っていうと葬式かなっていうのがちょっとあって。最近、斎場ができてね、葬儀委員長のいない葬儀が結構ありますので、段々、町内会があてにできなくなってきたというか、あんまり世話になりたくない、世話になんないようにしてるような生活様式が段々、増えてきたのかなというところもちょっとあります。

ただ、防災はやっぱり町内会にとって一番大事なところで、まちにとってもやっぱり一番大事なところで、そのためにもやっぱり町内会、人々の絆づくりが非常に重要なんで、行政がこれからまちを円滑に活動を支えていくためには、やっぱり、自助、共助の自助の部分をしっかりやってもらわなきゃならないという認識では、あの、ちょっと目を付けたところはいいとこなんじゃないかなというふうに思います。

まあ、一つにはやっぱり市の職員も、やっぱり意識改革は、当然、今、システムの話からして必要だとは思いますが、ですけどもね。だけど、やはり、現状でやっぱり入っていかないっていうのは、システム上やはり問題があるということなんで。それをやっぱり変えていかなければ、なかなか難しいところのかなというふうに思います。

長年こう、一挙に。昔はたくさんの方が、やっぱり町内会活動の総務部長とかやっていたわけで、まあ、段々、減ってきてるというのは、やっぱり、そういうシステムにも弊害が出てきたというふうに思います。以上です。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。

○説明員（市民生活課長） 私の方から、最近の事例というんでしょうか、いろんな相談事を受けています。それで、非常に困っているのが、隣人関係の問題が非常に多くなっていること。それで、「町内会の役員さんにも相談したんだけど、なかなか解決ができない。」というようなケースが非常に目立ってきたなっていうのがあって。これは、研修会の中でも小山田先生の方からやはり「何かお困りのことはありませんか。」の一声掛けから始

めてもらうというようなことが、やはり基本的なことなのかなと。まあ、そこら辺を町内会の皆さんにも理解をしていただかなければいけないかなと思っていて。そういう相談事の中に、つい最近、実は、「私は、地域に一切迷惑を掛けていない。」「ごみは自分で処分をしている。」「街路灯があるわけではない。」「子供たちは、自分で学校へ送り迎えしてるし、全然、地域には、一切、もう、迷惑を掛けていないけれども、隣の人はひどいんだ。」というような相談があるわけですね。まあ、現実、やはりそういったケースがあるということなので、我々も対応は苦慮している部分もあるんですけども、まあ、人権問題、いろんな問題があるんですが、やっぱりそういう、その時代認識、背景というのも現実なのかなっていう部分があったりしてですね。

まあ、町内会の皆様にも、やはり、そこら辺、義理意識の中での勧誘というものではなく、静かにさりげなくっていう方法もいいのかなと。それを、どう一緒にやっていけるのかな、ちょっと私、今、頭を悩ませてるといいます。私の立場でものを言いますと、また、そこら辺で逆効果がある部分があるもんですからね、これは非常に難しい。ここら辺は、谷岡会長のお知恵を拝借しながらですね、やっていかなきゃいけないかなっていう部分があったりもしているんですが。

やはり、地域と住民との関わりが本当に希薄化している、もう、間違いないと。そこを補うきっかけとして、やっぱり子どもさんっていいきっかけなのかなという部分もあります。いろんな形を変えながら、やっていかなきゃいけないかなっていうふうに、ちょっと最近、感じています。

それから、情報発信ということで、先ほどちょっと言い忘れた部分として、広報（秘書広報課）と協議をしまして、1年間を通していろんな地域の活動を取材しようと。それで、特集を組んでいこうというようなこともちょっと話もしています。なかなか、あの、腰が重かったんですけども、「いいから、ついて来い。」って、「やってくれ。」って。そういったことで、どこの時点で特集を組めるかっていう部分は分からないんですが、できるだけ行政を巻き込むようにしていきたいというふうに思っています。

で、まあ、「(町内会が) なかったら困るんだよね。」っていう部分、そういったこともやはり、形を変え、品を変えながら、役所の中、外にPRしていかなければいけないかなっていうふうに思っています。

そんなことで、今、いただいた中で、「企業や団体との連携」だとか、そういったこともやはり、積極的にやっていかなきゃいけないだろうしなど。何かきっかけ作り、まあ、先般、日新町の町内会の方から御報告をいただきまして、まあ、きっかけ作りも必要なんだろうなというふうに思っていますんで、そこら辺はあまり肩を張らないでやれる方法なんかも、一緒になってやっていければなと思っています。

最近、一つうれしかったのは、「実は、町内会の通知文書、たくさんあるんだ。市の各課が出すのは1通かもしれないけど、受ける側にしたら20、30になる。」と。ごもつともなわけですね。私も気が付かなかったんですが、「そんな紙の文書で送付しないで、メールでほしい。そうするとメールのまま会報の中に掲載できる。書かなくて済むんですよ。」って、「そういうような、検討できないか。」っていうお話いただきました。「ああ、なるほど。」と。「そういうような方法もいいのかな。」と。非常に嬉しく思っていますね、ちょっとそこら辺、庁内の中でどう整理していくかっていうのも、非常に嬉しいお話をいただいたなと思っています。

我々、ちょっと、いつもパソコンは使ってるんですが、そういう使い方って言いますか、先ほどから「あるコンテンツ」っていうのがありますが、やはりそこなんだろうなというふうに思っています。そこら辺は非常にそういうふうな情報もたくさん寄せていただける役所じゃなきゃいけないかなっていうふうに感じています。以上です。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。

●栗山委員 まあ、今の話でちょっと思い出したんですけども、今の子供、川島先生のとこもそうだと思いますけど、本、読まないですよ。活字読まないですよ。

●川島委員 結局、読ませなきゃだめですね、漫画ばかりで。

●栗山委員 そして、まあ、まずゲームに入り込んで人と話さないですね。それが、例えば10年後、20年後になってくるわけで、コミュニケーションできない子供がすごい増えてるんで、将来的な町内会活動っていうのは、非常にこれから険しいなっていうふうには思います。ですから、それに合わせたようなフェイスブックだとか絵などを使って、やっていかざる得ないのかなっていう気はちょっとしました。

●川島委員 いいですか、今、こう、お話聞きながら思ったのは、やはりこう、子供を中心に親を誘い込むっていうのも一ついいのかなって思って。今、冬休みの子どもの、小学校なんだけども「作品を必ず何か出しなさい。」っていうのがあるので、あれをちょっと思いながら、例えばね、教育委員会に諮って、小学生がですね、「自分のいる町内会のことを調べてきなさい。」という、そういう課題をですね、先生方が子どもたちに与えて、それで、それらを生徒たちが親やその町内会の役員の人に聞くと。そして、それをまとめて、それをいろいろ掲示するみたいな、そんなような形をさりげない仕掛けでね。子どもが「町内会で何やってるの、お父さん、お母さん。」っていうような形で。また、そういったところでいろんな会話がね、一つ出てくるんじゃないかなって、ちょっと、そんな話聞きながら思いました。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。

●小山田副会長 アメリカって意外と強いんです、コミュニティが。なぜかという、教会があって礼拝のときに顔を合わせるんですね、地域の人たちがね。もう一つはね、子供です。ボーイスカウト、ガールスカウト。あれが徹底してますから、それがそのままボランティアもやっていくし、それから、ボーイスカウト、ガールスカウトのために寄附がたくさん集まるんですね。だから、大統領選であれだけ盛り上がるんですよ。

日本の選挙の投票率なんて、もう戦前から満遍なく右肩下がりで行ってますよね。だから、これがね、住民の地域への回帰っていうか、それがどんどん希薄になっているっていうことの表れなんですよ、やっぱりね。

どこかで、その、コミュニティの持ち方っていうのは、日本がアメリカに抜かれるんですね。あれだけね、GHQが町内会によって転覆されるから、町内会の活動を1年半止めたわけですからね、「日本のその地域、地縁の力はすごい。」って言って。今はもう、希薄になっちゃって、向こうの方が遥かに強い。ちょっと余談ですけど。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。あとは何かありませんか。いいですか。

そしたら、皆さんにいろいろな御意見いただきましてありがとうございました。それでは、議論の方はこれで終了させていただきまして、あとは事務局の方からよろしく願いいたします。

(3) その他

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、最後、その他について事務局からなのですが、本日の推進会議の中で、今後の予定と次年度の取組については了解をいただいたと思いますので、本日までの議論を踏まえて、報告書（案）を事務局の方で作成しまして、次回の推進会議でお示ししたいと思います。また、モデル地区の選定に当たって、各町内会へ募集案内を送付したいと思います。

次回がですね、今年度、最後の推進会議になろうかと思いますが、開催日は来月の下旬を予定しておりますので、日程が決まりましたら文書で案内を送付させていただきますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上です。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。それでは、これで本日の会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

3 閉会